



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

1 1 月号

令和6年10月31日

さいたま市立与野本町小学校

「ケ」こそ大切に

校長 小野 圭 司

「ケ」とは、「ハレとケ」の「ケ」のことです。「ハレ」とはお祭りや年中行事などの非日常のことであり、反対の意味を表す言葉として「ケ」（普段の生活、日常のこと）があります。

10月19日（土）には運動会を開催したところ、ご来賓の皆様をはじめ、多くの保護者の皆様、地域の皆様にお越しいただき、無事に終わることができました。温かなご声援の中、子どもたちが精一杯の演技や競技ができたことに深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

この日は、子どもたちにとって正に「ハレ」の日であり、「晴れ舞台」でした。これまでの練習の成果を十分に発揮し、多くの子どもたちが自身の演技等に満足したのではないかと思います。もしかすると、中には厳しい目で自身の演技等を深く反省している子がいたのかも知れませんが・・・。

子どもたちにとって「ハレ」の日（運動会当日）は、「ケ」の日を頑張るための原動力となります。教員からも「当日はお家の人や地域の人が楽しみにしているから、もう少し頑張ろう」などの声掛けが聞こえていました。これは、「ご褒美」に釣られて頑張ることとは違います。「ご褒美」の場合は自身がそのご褒美を得たいがために頑張りますが、「ハレ」はもう少し崇高な意味合いがあるように思います。特に、「お家の人や地域の人たちが楽しみにしているから」という相手意識をもつことにもなります。

「ケ」では、暑かったり疲れていたりして練習に身が入らないことも多いのですが、その気持ちを鼓舞するための原動力である「ハレ」を学校では上手く意識させながら、子どもたちを指導しています。その声掛け等を受けて、子どもたちが頑張れるかどうか、その子の現時点でのやり抜く力と言ってよいのではないのでしょうか。

今後、様々な問題にぶつかっていくであろう子どもたち。「ハレ」を意識することにより、「ケ」を大切にする力を身に付けることがとても大切です。ぜひ、保護者の皆様や地域の皆様には「ハレ」の素晴らしい結果や成果を褒めていただくことはもちろんですが、その日に至るまでの過程で練習等に身が入らない時もある気持ちを鼓舞し、何とか「ハレ」につなげる子どもたちのやり抜く力を褒めてあげてください。「ケ」こそ大切にしてください。きっと結果や成果ではなく過程を大切にする子に育つのではないのでしょうか。

いよいよ秋が深まってきました。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋など、何にでも取り組みやすい時期となります。〇〇大会や〇〇コンクールで表彰されること、何かができるようになること、一冊の本を読み終えることなどの「ハレ」を子どもたちに意識させつつ、そこに至るまでの「ケ」を褒めていただくことをぜひお願いいたします。